



新風会
上田 義定 議員

問 船津地区の高潮対策について

Q 防災道路、排水ポンプ、広馬場下の埋め立て、締め切り堤防の工程について問う。

A 各工事において、地形測量、用地測量、ボーリング調査、用地取得に向けた業務、基本設計等進行中であり、平成31年度末の完了を予定に整備を進めている。

Q 排水口に逆流防止弁を整備してはどうか。

A 構造的に難しいものではないので検討したい。

Q フラップゲートの開閉に不便がある。改善を求める。

A 実効的な効果が見られる方向で、対応できる分については、県と相談しながら改善を図りたい。

問 中学校の部活動について

Q 小学校の社会体育と中学校の学校体育について問う。

A 小学校における社会体育は地域のスポーツ活動の推進と健全育成を目的としている。学校管理下における教育活動の一環ではない。一方、中学校の部活動は学習指導要領に位置づけられた学校教育の一環である。

Q 部活動の指導と管理は教職員の仕事の一環ではないのか。怠っている教職員は職務の怠慢ではないのか。

A 部活動は教職員の仕事のひとつだが、原則として勤務時間を超えて命じないとなっており、現在の法体系では自主的・自発的な活動とされている。その法体系と現在の部活動の実態が乖離しており、全国的な問題となっている。

Q 先生としての志高く、部活動の指導をするべきではないか。学力向上にもつながるのではないか。

A 非常に教育効果の高い活動であるので、全ての市内の先生方に部活動の意義を浸透させていかなければならないと考えている。



実践クラブ
北浦 守金 議員

問 水産業の振興について

Q 大変厳しい状況が長期間続いている漁業環境を改善したいが、市長の認識は。

A 水産資源が減少し、沿岸漁場の環境が大変厳しい中で、漁業者は御苦労をされている。漁業環境を改善したい思いは同じである。

Q ①魚種を絞って種苗放流できないか。②放流効果を出すため、まずは干潟の環境が大事だと考えるが、島原独自の対策を。③漁場を休ませるためにも養殖事業を活用してみたい。

A 収益を得るための放流効果の検証や放流効果を高めるための有明海の自然環境の状況の調査を国や県に對し要望したい。また、有明海再生は沿岸自治体の協力を得る必要があり、話し合いたい。

Q 漁業の新規就業者に対する支援策の拡充を。

A 厳しい現状に対する御指摘は受け止めている。漁業協同組合や関係機関と調整し推進していきたい。

Q 漁業者が期待する国立の栽培漁業センター誘致の実現を。

A 漁業者の切実な声を、本市の要望として県へ伝えるなど、積極的に発言したい。

問 島原半島ジオパークについて

Q 条件付き再認定を受けたが、前回の指摘と重複するものもあるのか。

A 改善が足りないとの指摘もあった。

Q ジオパークを使って地域をどうしたいのかなどの基本的な指摘事項もあるようだが、来年の世界ジオパークの再審査までに改善できるのか。

A 半島3市が一緒になってクリアしたい。

Q 経済効果はあるのか。

A 島原半島におけるジオパーク目的の宿泊者は15万人となっている。

【その他の質問項目】

◇地域高規格道路島原道路について
◇市政運営について